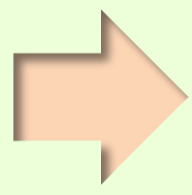


○真庭バイオマス産業都市構想とは

市内にある豊富なバイオマス資源を市民、事業者、行政が相互に理解・協力しながら有効活用することで、地域全体の活性化につなげる構想。

「自然」「連携」「交流」「循環」「協働」をキーワードに次の4つの事業化プロジェクトをH26～R5まで10年間取り組む。

- ①バイオマス発電事業
- ②木質バイオマスリファイナリー事業
- ③有機廃棄物資源化事業
- ④産業観光拡大事業



○真庭市バイオマス活用推進計画とは

バイオマス産業都市構想の理念のもとに、具体的なバイオマスの活用・高付加価値化に向けた計画。

この計画により、次の5つの取組を推進する。

- ①再生資源を基盤とした自立型社会の実現
- ②バイオマスの複合的利活用と新技術の導入促進
- ③農林業の振興をはじめとする地域の活性化
- ④異分野・異業種間の交流・連携・協働を通じたの地域内人材の育成
- ⑤バイオマス活用を軸にした地球温暖化防止

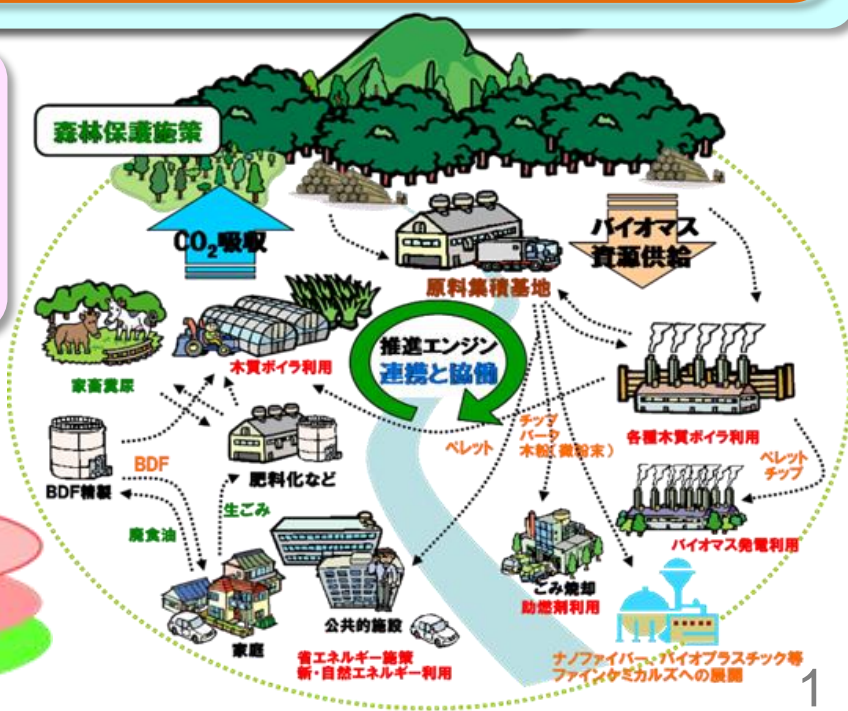
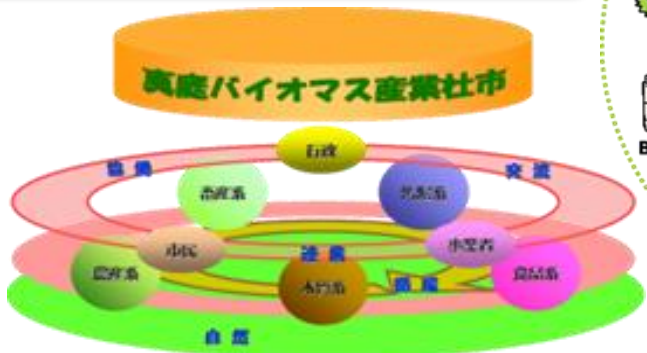
○中間評価の必要性

構想及び計画策定から平成30年度で5年が経過したため、プロジェクトの目標達成状況、進捗状況及び事業計画見直しの必要性等々を評価する。

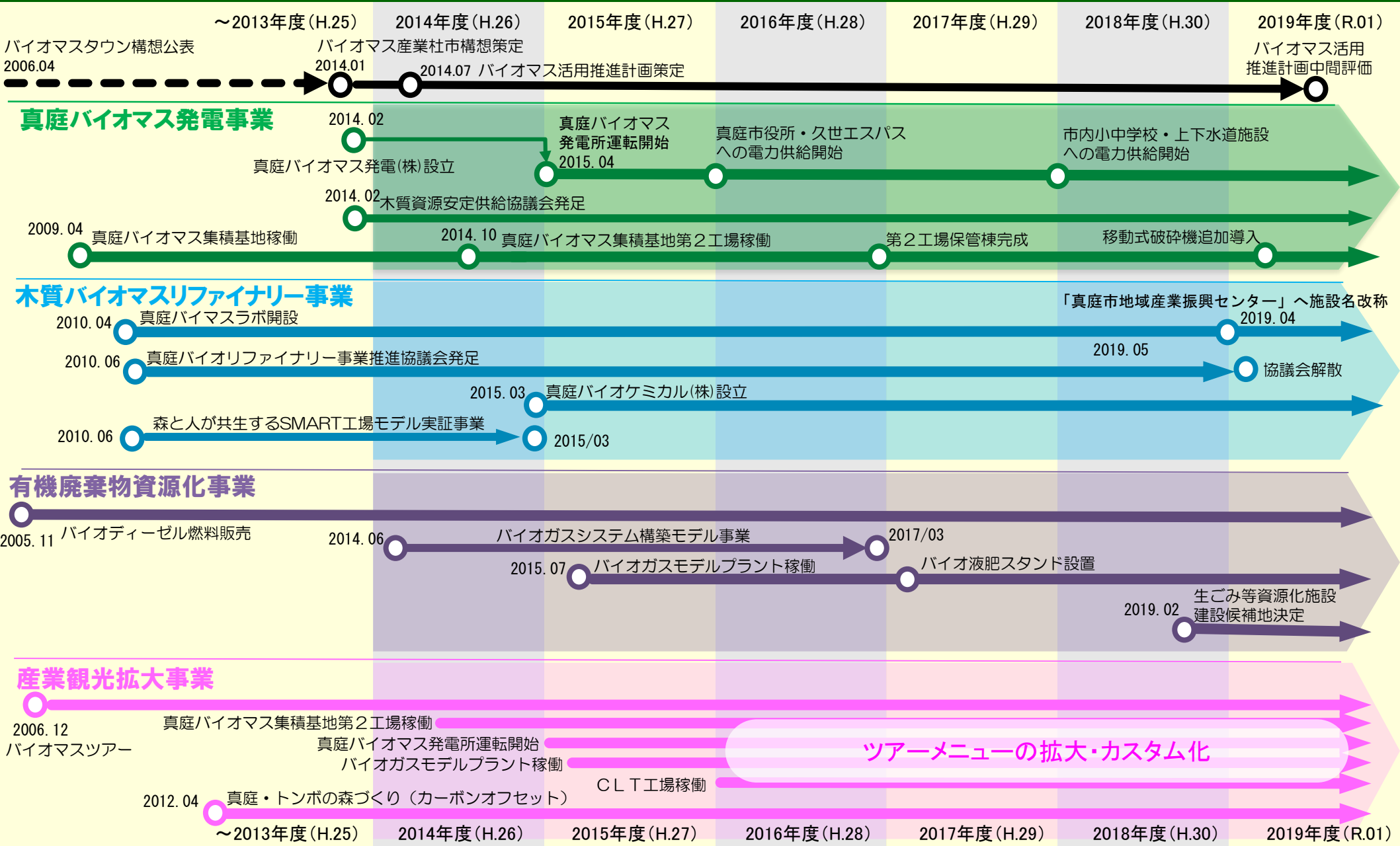
評価内容は農林水産省へ報告するとともに、真庭市ホームページへ掲載し広く市内外へ公表する。

目標

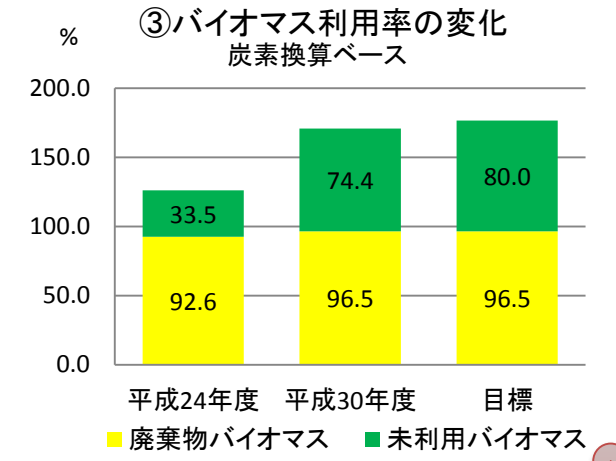
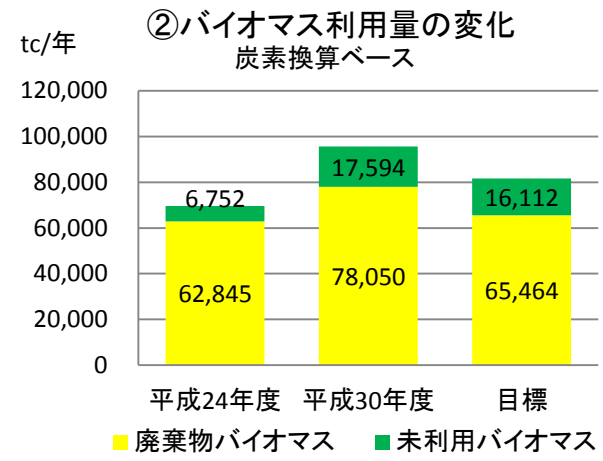
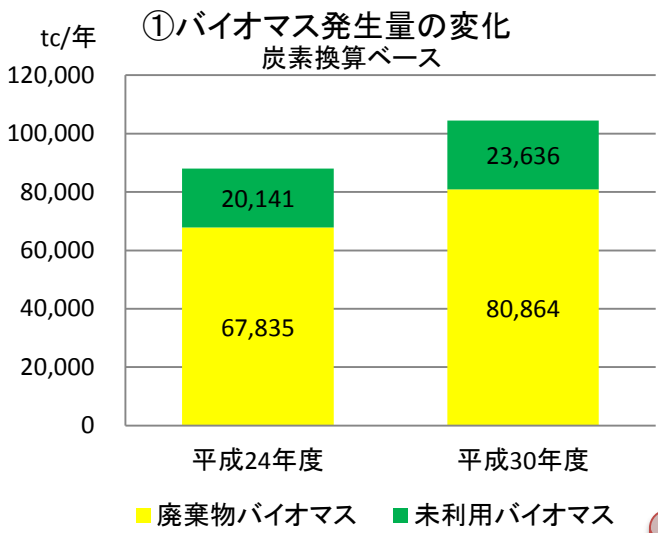
項目	推計値
目標バイオマス利用量	約 349,000 t/年
換算エネルギー量	約 4,316,000 GJ/年
原油代替量	約 113,000 kL/年
CO ₂ 削減効果	約 299,000 t-CO ₂ /年
雇用効果	約 250 人/年



真庭バイオマス産業都市構想・真庭市バイオマス活用推進計画 ～事業経過～



真庭バイオマス産業都市構想・真庭市バイオマス活用推進計画 ～目標達成状況～



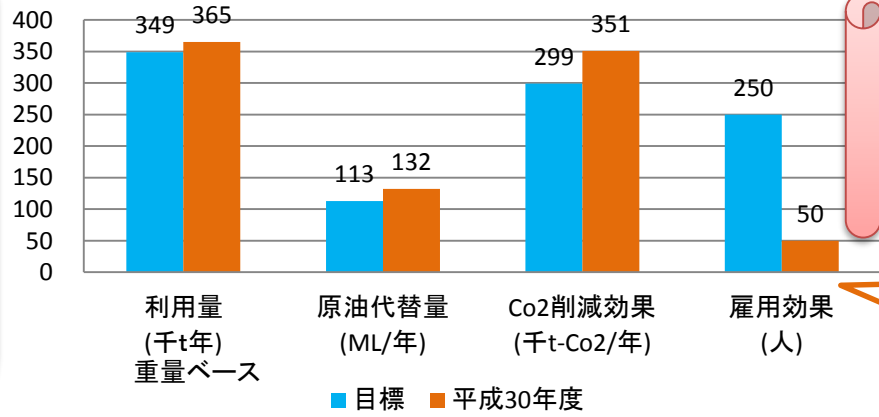
分析
製材所から発生するおが屑や端材の供給が増加(廃棄物バイオマス)
間伐により発生する林地残材の供給が増加(未利用バイオマス)

分析
バイオマス発電所の稼働により、バイオマス燃料需要が増加

分析
廃棄物バイオマスは5年で目標達成
未利用バイオマスは目標の9割達成

波及効果

ポイント!
この5年間で、4つのプロジェクトを通じて市民・企業・各種団体・行政が機能的に連携しあう仕組みが構築され、新たな価値を生み出した。バイオマス産業都市構想の実行により、真庭市全体の「地域価値の向上」に貢献できている。



分析
当初想定していた効果を概ねクリア
さらなる雇用創出が課題

直接雇用として把握している人数であり、実際には関連雇用が多数発生していると思われる。



15 陸の豊かさも
守ろう

山林所有者自らが放置
木を集積基地に搬入

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

住民が庭木の剪定枝を集積
基地に搬入

農地や家庭菜園での
液肥の活用が促進

高齢者・小規模農園の
生産品を真庭市場で販売

製材所から排出される
端材の利活用

・山(木材)への関心
・不要物が有価物へ
・年間14億円の燃料費が地元へ
・エネルギー自給率が33%へ上昇

**真庭バイオマス
発電事業**

ペレットストーブの普及
218台 (H31年度末)

11 住み続けられる
まちづくりを

**有機廃棄物
資源化事業**

・生ごみ減量化の意識向上
・廃棄物の有効活用

市民のごみ減量化・
分別意識が向上

海の市山の市真庭でのご
みゼロ活動が定着

12 つくる責任
つかう責任

**木質バイオマス
リファイナリー事業**

市内小学生を対象とした科
学実験教室

・新たな価値の創造
・新分野の学び(人材育成)

4 質の高い教育を
みんなに

**産業観光
拡大事業**

民間企業による新製品の開発・販売

関連産業(宿泊、お土産、
昼食等)への波及

・観光振興
・真庭市を全国へ発信

交流人口の拡大
バイオマスツアー客がター
ン者に

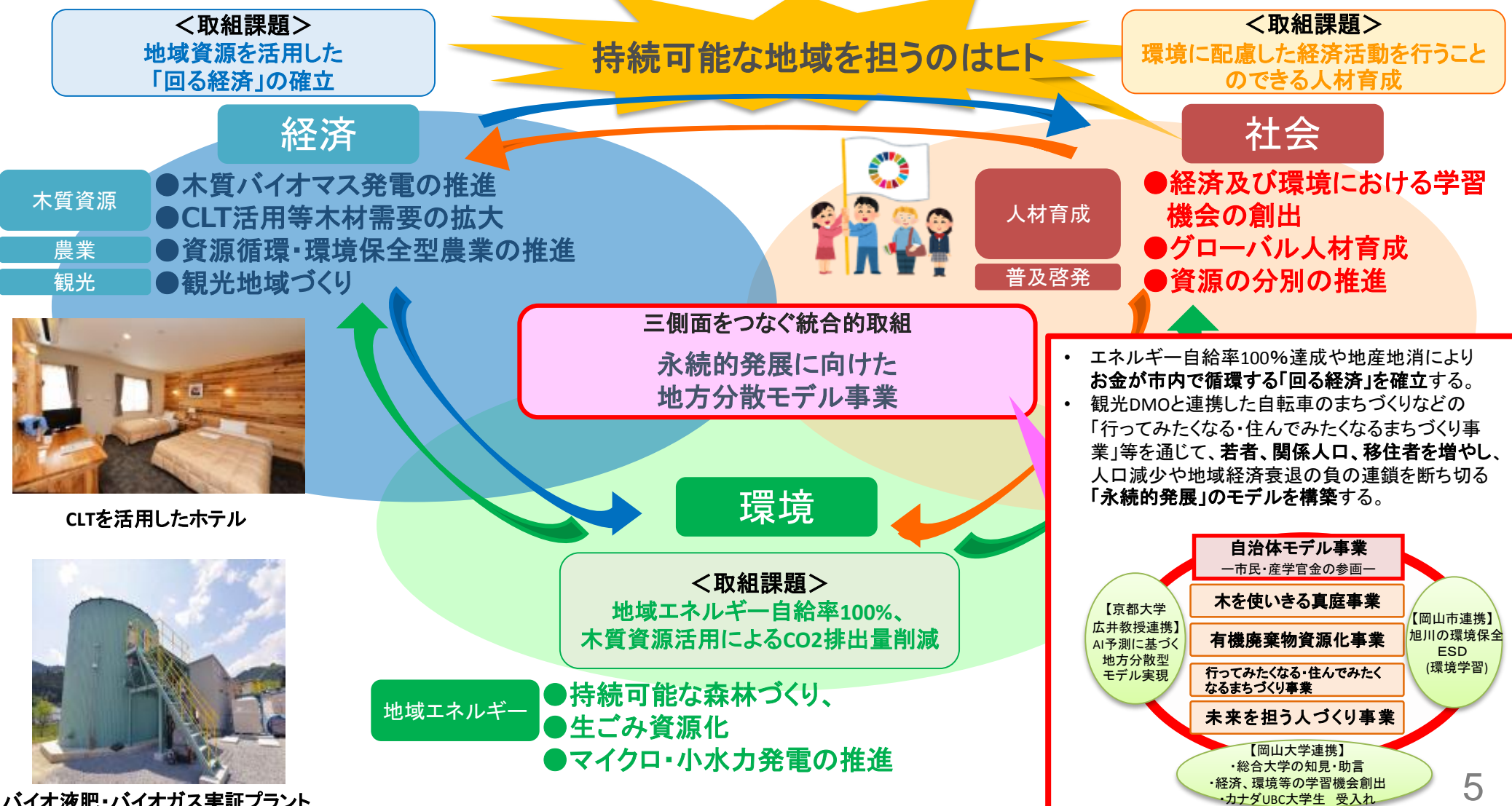
福祉施設でのノベル
ティ生産が軌道に

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

真庭バイオマス産業都市構想・真庭市バイオマス活用推進計画 ～新たな展開(SDGs未来都市)～

中山間地域における地方分散型のモデル地域を目指し、人口減少の抑制と年齢構成の偏在の解消に向け、既に効果が発現している地域エネルギー100%に向けた取組を強化。地域資源を活用したCLT等の木材需要拡大、バイオ液肥を活用した農業推進、独自の観光事業の促進など循環型の「回る経済」を確立する。

持続可能な地域を担うのはヒト



多様な主体との連携のもと地域資源を活用し、環境・社会・経済への課題解決を目指す

(1) 広葉樹活用

チップ販路拡大

再生可能エネルギー100%への取組



広葉樹・雑木林



集積基地



県内外の
バイオマス発電所

生物多様性保全

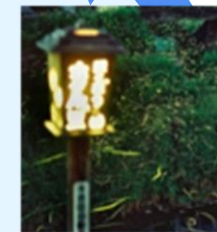
環境教育推進



水辺の教室
(岡山市から参加)



かいぼり調査



ホタルの里

(2) 里山の保全

バイオマスの
多様な活用

里山・里海
の連携

(3) 生ごみの資源化

一般家庭

真庭市内全体での取組



事業所等



し尿処理・
浄化槽汚泥場



バイオ液肥・
バイオガス
実証プラント



米・野菜に使用



無料配布

スマート農業



自動運転田植機



ドローン活用



かきがらを
活用した米

(4) 瀬戸内海との交流



真庭版 地域循環共生圏

~真庭ライフスタイルの実現~



「エネルギーと食による里地里山里海保全のモデル」を目指す